

平成 27 年度第 2 回鎌倉市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成 27 年 10 月 13 日（火） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 5 分
- 2 開催場所 鎌倉市役所第 3 分庁舎 講堂
- 3 出席者 松尾市長、下平教育委員長、齋藤教育委員
山田教育委員、朝比奈教育委員、安良岡教育長
- 4 関係者 経営企画部長、教育部長
- 5 事務局 経営企画部次長、経営企画課課長補佐、経営企画課担当職員
教育部次長、教育総務課課長補佐
- 6 傍聴者 7 人
- 7 会議概要
 - (1) 協議・調整事項
鎌倉市教育大綱素案
 - (2) その他

配付資料

資料 1 鎌倉市教育大綱素案

【議長（松尾市長）】

ただ今から、第 2 回鎌倉市総合教育会議を始めます。

本日は、教育大綱の素案について、議論をしていきたいと考えております。

委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと考えておりますので、限られた時間ではありますが、よろしく願いいたします。

そして、傍聴に来ていただいた皆様、第 2 回鎌倉市総合教育会議にご参加いただきありがとうございます。

この会議の傍聴につきましては、鎌倉市教育委員会傍聴規則を準用いたします。

私語を謹んでいただくことはもちろん、会議における言論に対するご発言、拍手などの行為は禁じられております。皆様のご協力をお願いいたします。

それでは、「鎌倉市教育大綱素案」について、事務局から説明をいたします。

【事務局（経営企画部次長）】

経営企画部次長の大隅でございます。

最初に、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は次第と資料1、3枚1組です。お手元に不足はございませんでしょうか。(なし)

それでは最初に基本理念と基本目標についてご説明いたします。資料1をご覧ください。

大綱素案の策定に当たり、大綱素案の体系を基本理念、基本目標、プラス重点施策として整理いたしました。

素案の作成に当たっては、第1回総合教育会議でご議論いただいたご意見や策定方針に基づき、個別計画との調和に留意し進めてまいりました。

第1回総合教育会議では、教育大綱が対象とする範囲を特に限定することなく、幼児期から大人に至る全てのライフステージにおいて、それぞれに合った教育が必要であるとの認識が一致しました。

そこで、個別計画をライフステージで整理したところ、青少年課が所管する「鎌倉市子ども・若者育成プラン」について改めて考慮する必要があると考え、調和を図る個別計画に含めて検討してまいりました。

基本理念の設定については、基本目標が、現行の個別計画の集合体となることから、共通した考え方として基本理念が必要であると考え、理念のベースとなる各個別計画における4つの考え方を整理しながら検討してまいりました。

基本理念として、

「未来を拓く「生きる力」を育み、大人も子どもと共に学ぶ共育を進めます」を提案いたします。

それでは、基本理念とそれを実現するための基本目標について考え方をご説明いたします。

鎌倉市では、かまくら教育プランと鎌倉市生涯学習プランを併せて、教育振興基本計画と位置付けていることから、基本理念の策定に当たっては、かまくら教育プランの考え方を基本に検討してまいりました。

まず、基本理念の考え方ですが、かまくら教育プランでは、他に頼らず自分一人の力で行う「自立」の精神と、自分で自分の行動を規制する「自律」の精神を、子どもたちに身につけさせること。

また、互いの人権を尊重し合い周囲と協調することなどの「共生」する心を養うよう指導することが求められています。

このため、子どもたちが、変化の激しい現代社会を生き抜き、自己実現を図るためには、子どもたちの「未来を拓く生きる力を育み」、子どもばかりでなく、親も含めた地域に住むすべての人が、「大人も子どもと共に学ぶ共育」の考え方を理解し実現することを目指すことが必要であると考えました。基本理念の案が理念として相応しいか、ご協議をお願いしたいと思います。

次に、基本目標ですが、基本目標は、現行の個別計画である鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン、かまくら教育プラン、鎌倉市子ども・若者育成プラン、鎌倉市生涯学習プランと調和を図り、基本理念を実現するための基本目標として相応しいと考えるものを位置付けております。

基本目標1から7につきましては、現行の個別計画の中で位置付けられています。

また、新基本目標8については、市長部局と教育委員会の連携体制を明確にすべき視点を基本目標の一つとしてこれまでのプランには盛り込まれていない新たな視点を記載いたしました。

基本目標の案は、ご協議いただく上での素材としてお示ししていることから、基本的な考え方や、目標とすべき項目の過不足も含め、ご協議いただきたいと思います。

以上で前半の説明を終わります。よろしくご協議いただきますようお願いいたします。

【議長（松尾市長）】

事務局から説明がありましたが、大綱の作り方はいろいろな方法が考えられます。

国から方針と目標が示されたことから、それぞれ掲げるという考え方がありましたが、協議をする中で方針と目標が同じようなものであることから、目標ということで整理をしました。

基本的には3層構造でたたき台として作りました。

まずは理念と目標についてご意見をお願いいたします。

【下平教育委員長】

まずは第1回総合教育会議の内容、現行プランなどを照らし合わせて、非常にわかりやすく素晴らしい素案をお作りいただきありがとうございます。非常によくまとまっていると感じます。

まず一つの意見です。通常、新聞や雑誌でもキャッチコピーは25文字以内にまとめられています。市長もそうだと思いますが、私も全国の教育委員会連合会などで、鎌倉市の取り組みを発言する機会があります。その時にインパクトのあるキャッチコピーがあると、自分も再確認になるし、他の市へのアピールにもなるし、市民の方や子どもにも判りやすくなるのではないのでしょうか。

インパクトのあるキャッチコピーが、基本理念の上にあっても良いのではないのでしょうか。

例えば、思いつきで書いたものですが、目標や基本理念を踏まえ、「生きる力の「共育」鎌倉」とか「いきいき「共育」鎌倉」とか、インパクトがあってイメージしやすいものがあるとありがたいと思います。

それと、色々なところに発信していくのに、目に訴えるようなロゴがあっても良いのかなと思いました。このロゴも、思いつきで書いたイメージで恐縮ですが、地域と家庭と学校と市とが、愛のハートで結び合っている幸せの4つ葉のクローバー。それを皆が生きる力で支えているようなイメージで書いたものです。

キャッチコピーやロゴがあると、皆がそれに向かっていろいろな場面で確認し合えるでは、と思いました。たたき台として目に見えたほうが良いかなと思ってきました。

【山田委員】

委員長の意見と重なりますが、いろいろなプランがある中で、新たに大綱を作るという機会ですので、いろいろな方に親しみやすく、耳に残り、色々な施策がそこに立ち返れるようなキャッチコピーがあると良いと思っています。

実際に教育を通して、あるいは鎌倉で成長していくことを通して、最終的に何を目指すかという、やはり自分自身が人生を楽しめる、そういう一人ひとりを育てていきたいということです。私が考えましたのは、「人生を前向きに切り開き楽しめる鎌倉人を育てる」というようなことはいかがかと思っています。

学習するのも働くのも、すべては自分が幸せに生きていけるためだと。そのために必要なことをそれぞれのステージでしているのだということが感じられるキャッチフレーズになると良いと思います。

【下平教育委員長】

鎌倉人みたいな表現は素敵ですね。

【山田委員】

短く考えたいと思います。

【齋藤委員】

私は、学校現場で仕事をしてきたことから、学校教育を大事に考えている自分があるなと思います。

それに合わせて、幼児期から高齢者にかけても、皆で良い鎌倉に住めると良いという思いをもっています。そういう中で、学習指導要領を考えると、確かな学力とか豊かな心、健やかな体の調和を重視していくことが学力の要素として良くあげられています。そういうものを含めて考えると、確かに基本理念にしても次の目標にしても、細やかな配慮ある案が出されていると思います。網羅されていると思います。

基本理念につきましては、先ほどからキャッチコピー25字以内という話が出ていますが、確かに鎌倉ってこうだというものがある事はとても素敵だなと、私たちがその方向に向かえるなという想いをもちます。

私は堅いかなと思いますが、言葉としては、「生きる力を育み育ちあう教育、共育」ということで、子どもたちが様々な生きてほしい、明るく楽しく生きてほしい。そして、自分たちの友達も、地域の人も、親と子も、ともに育っていく共育が良いと思いました。

【朝比奈委員】

共育という言葉は造語ですね。このごろ教育の場でよく使われておりまして、教育というと大人が子どもを教えるということばかりをイメージしがちですが、大人で、学ばなくても良い大人はいるのだろうか。90歳になっても学ばなければいけないわけだし、学ぶことはたくさんあると思います。

大人も子供も一緒にいて、子どもを見ながら、改めて学ぶことは大人もたくさんあるわけだし、子どもはまだ、未熟ですから立派な大人から沢山のことを教わらなければならないし、お互いが同格で共に生きていく。

子どもは一人では生きられないし、大人だって自分が一人で小さい子どもから大人になったわけではないし、皆のおかげで生かされているということを自覚するような、そういうことが生きる力に結びつくのではないかと思います。

そんなことが理念としてあり得るのではないかと考えます。

【安良岡教育長】

基本理念にあるように、未来を拓く生きる力は、子どもたちに投げかけている言葉だと思います。

他の委員さんのお話にもありましたように、子どもたちだけでは育たないので、子どもを育てている大人もしかり、そして地域の人たちも一緒にという、大人も子どもも一緒に学ぶということが、大切だということを大綱の中に盛り込めると良いと思います。

基本理念に大人も子どもと、あえて入れる必要があるのか。齋藤委員さんが言われた、育ちあうとか、一緒にやってみようという思いの言葉が入ってくると良いと思います。

【議長（松尾市長）】

キャッチコピーを作った方が分かり易いというご提案がありました。

基本理念は基本理念として考えたとしても、キャッチコピーがあった方が良いというのは皆さん同じ思いということでしょうか。

基本理念とは別にキャッチコピーを作ることで、一つの鎌倉の教育はこうだという、学校教育のみならず、教育大綱における教育はこうだということを、キャッチコピーで表していくことをやっていきましょう。

基本理念の中ではいろいろとご意見が有りましたが、大人も子どもとなっているところが、そもそも表現として変えた方が良くはないかということでした。

ご意見を基に文言の整理をしていくことでしょうか。

【下平教育委員長】

前回の第1回会議でもお話ししたのですが、この秋、他の教育委員さんたちと皆で運動会や音楽祭や文化祭を回りました。子どもたちが美しい笑顔できらきら活躍している姿を見て、あらためて心から支えていきたいなと思っています。

その反面、社会で起きている様々な子どもを巻き込む犯罪やトラブル、例えば虐待や貧困の問題とか、パラスイトやDVなど、あらゆる事件を見ていると、子どもの問題ではなく、大人が問題です。大人たちがそうになってしまう背景がいろいろあるのです。一人ひとり責めるつもりはないが、皆がさみしくなっている弱くなっているこの社会だからこそ、やっぱり大人が変わらうというか、支えられる力を持てる大人にならうというところがとても大切ではないかと、いろいろな場面で感じています。

【山田委員】

「共に」という言葉にはいろいろな解釈の仕方があるのですが、今まで委員長などがおっしゃったことは共感します。

私も親をしていて本当に自分が未熟だと感じることも多々ありますし、茶道の世界などは、一生勉強だと80歳90歳の方が皆さんおっしゃるくらいですから、学ぶことは、生きている限り無限に存在します。

一方で、最近子どもと大人が、同列に並んでいるような錯覚を起こす子どもが結構多いと聞いています。

例えば、親が子どもをしかると、「虐待だ！DVだ！通報するぞ！」などと半ば脅迫する子どもや、理不尽に教師にクレームするモンスターペアレンツも昔より増えている、と聞いています。

先生というのは、師として敬愛する立場にいる方で、敬意をもって対峙すべき存在なのですが逆に見下したり、食らいつくような親もいると聞き、残念に感じています。そのような中で、子どもは大人に守ってもらい、育ててもらっている、親は先生に我が子をお預けし、教育していただいている、ということに対する敬意を忘れないことも大切な要素と思っています。そこが誤解されない表現にしたいと思っています。

【議長（松尾市長）】

基本理念の大人も子どもと学ぶというのは、少し違和感があります

【山田委員】

付けないで共に学ぶでも良いのかもしれませんが。

【斎藤委員】

最初に考えたのは、大人も子どもというところをカットしてみました。

すると、ともに学ぶ共育となったときに誰になるのか。育ち合うとすればよいのか。育ちあうということは、支え合ったり、助け合ったりとなります。

【下平教育委員長】

基本理念は、キャッチコピーと被らないものを考えなければならないと思います。今ここで答えが出せませんが、皆の想いが反映されていけばよいのではないかと思います。

同列ということではなく、倫理観とか尊敬の念とか道徳的な教育が薄れています。大人も子どもも含めて、お互いに尊敬しあうことが大事なことから、合わせて振り返らなければいけない社会になっていると思います。

【議長（松尾市長）】

他にご意見がないようでしたら、頂いたご意見を受けまして、文言の整理を次回に向けて行っていきます。

次に、基本目標についてご意見を頂ければと思います。

【下平教育委員長】

第1回の総合教育会議で出た意見をもれなく押さえていただいていると思います。

まず、基本目標の1と8は、一つにすることが考えられると思います。

基本目標8に入っていますが、貧困の問題が、様々な命への問題につながっているということがありますから、こういうものも含めて、孤立化しない、子育て支援の中に入れることはできるかもしれないと思います。

基本目標1の3行目のところに、家庭への経済的支援の充実とあります。ヘレンケラーやマザーテレサが、人間にとって最も過酷なことは、貧困や食べ物の飢えではなく、認め合える人や支え合える人がいないことなのだとおっしゃっています。

経済的支援だけでなく精神的支援というような文言を入れたほうが良く、そういうものも含めて基本目標8につながるのではないかと考えます。

私が、もう一つ社会の重要な課題だと思うのは、学校の先生方がものすごく忙しい。学校訪問して先生方の頑張りをいつも見えています。

スクールカウンセラーがいても、どちらかというと子どもや保護者向けになってしまっています。教職員の方々の心身の健康管理が必要で、先生が元気でないと健康な子供が育つ、学力も伸びるといふところにつながらないと思います。

そうなるとう基本目標3や4のところに、教職員へのバックアップも入れたいと思います。

【山田委員】

基本目標3のところの確かな学力の定着ですが、学校で学ぶことは主要教科をしっかりと身につけることだけではないので、4と重複している部分があるのではないのでしょうか。

きちんと学習するのも、スポーツそして道徳を身に着けるのも、すべては豊かな教育と捉えられると思います。学力は勉強というニュアンスが強い言葉だと思いますが、これを学びとして、豊かな学びの定着ですとか、もう少し幅を広げて、最終的には豊かな人間になるための勉強であったり学校での活動だつたりに結びつくようにできたらよいと思います。

教職員の精神ケアは重要だと思います。基本目標3、4は比較的小子どもに対してのこのように感じますので、ここにうまく反映させることができないかと思っています。

【齋藤委員】

教職員の部分をどこかに入れられるか考えると、基本目標3番に確かな学力の定着を図ると書いてありますが、確かな学力の定着を図る教育環境作りとしたら良いと思います。

そこに教職員が関わる。つまりわかる授業を推進するということは、職員がしっかりと勉強してはいけない、教材研究もしなければいけない、それによって基礎的基本的な知識が習得できる。良い言葉があれば入れても良いと思いました。

先ほどのお話の中で、そうだと思ったことがあります。基本目標8の貧困や子育てに悩む家庭への支援と委員長がおっしゃったように、基本目標1に精神的支援の充実が入ると良いと思いました。

【山田委員】

教育には文化芸術の側面も入ってくると思います。

例えば「文化芸術を味わう教育の推進」ですとか、文化的な育成が盛り込めると良いと思います。

【下平教育委員長】

3にも入るかな。郷土を愛する・・・。

【朝比奈委員】

鎌倉らしい、鎌倉ならではの点で、郷土のこと、あるいは地場産業の鎌倉彫に代表されるような、鎌倉ならではの工芸の類を親しむような、現実に学校でやっているとありますが、農業は、一般的とはと言えないかもしれませんが、鎌倉野菜は鎌倉の中心部に耕作地があるわけではないので、それを学校が積極的に取り入れるのは難しいかもしれません。

漁業は、腰越あたりでも体験できたりするので、そういう地域らしいことがどこかできちんと打ち出せると良いと思います。

後は、お寺だけではなく神社も多くありますし、実はキリスト教の教会などは、神社より数が多いと言われています。

狭い鎌倉のまちの中に、実は意外に宗教活動に関わる施設が沢山あるのだということ、それはどうしても公教育の中で宗教に偏る教育が難しいと思いますが、なにかうまく腑に落ちるような言葉

があって、文化財に親しむでも良いのですが、一つそれが鎌倉らしさを引き出すことになるのではないかと思います。

学校訪問をすると、担当の先生の裁量によるかと思うのですが、廊下のあるエリアに来ると、突然きれいだったり、突然汚かったりします。廊下にぶら下がっている袋だったり、掲示物だったり、そういったものがきちんと整っているところとそうでないところと大きな違いがあります。

これは先生を見れば一目で、この先生は生徒から信頼されている、ある意味恐れられているかもしれせん。そういう先生の教室は、とっても整っていてでも別に萎縮しているわけではなく、児童は楽しそうにしている。だけど、暗くなってつらそうにしている先生のところは、何かこう散らかったままだったりする。

何かそういう先生方の心のケアは深刻な問題だろうなと思います。そういうことも、ぜひ盛り込んでいきたいと思います。

あと、目標1の食育のことがあります。これから中学校で給食が取り入れられていこうとする中で、食事がどれだけ家庭においてもきちんととれているかということは脳の発達などもさることながら体も含めて、ひいては心のことにもかかわるおかしなものを食べていないか。それは上等なものとかではなく、科学的に心配なものがたくさんあると思います。そういうものもなるべく気を付けていただくようにするような教育の中で、家庭環境としても言っていますが、そういうことを目標として取り入れていけたら良いと思います。

【安良岡教育長】

基本目標の作り方としては、最初の基本目標1、2が就学前の子ども、3、4、5が小中学校、6が青少年、7が生涯学習という作りになっているので作りとしてはこういう流れで良いと思います。目標をどのような内容にしていくかは、皆さんと議論しながら、この後の重点施策と絡みますが、その辺と比べながら目標の文言については少し整理をしていくことも必要ではないかと思います。

先ほど山田委員が言われたような、確かな学力豊かな学びという言葉があったように、そんなところも議論できればと思います。

【議長（松尾市長）】

ありがとうございます。

それぞれのプランから文言を引用している部分があり、今ご指摘いただいたようなところでの今後の修正ですとか、また、不足している部分をさらに追加したいと思います。

【下平教育委員長】

一番大事なものは、良い書類ができたということではなく、実際それを推進し実行していくことです。そう考えると、私たち委員一人ひとりも市長も、それから市の職員たちも、ここがいつも頭に入っていることが必要でしょう。そうすると、8項目もある事は多すぎないかなと思います。

次の重点施策にもつながることですが、通常人間が記憶できるのは5までなので、大きな目標は5つぐらいが良いのではないのでしょうか。

1と8が一つになって、子育て中の家庭への支援を明確にして、3と5を豊かな学びを図る教育環境づくりとかにすると、3と5も一つになりうるし、4と6も子どもを小学生とか中学生とかに限らなければ、皆が心身の健やかな成長と豊かな人間性を育むとかということで4と6が一緒になるとか、2と4が一緒になるとか考えられるとすると、5つぐらいに目標を絞れるのではないのでしょうか。

【山田委員】

確かに頭に入れるとなると常に覚えられるか不安です。

ちょっと多いなという印象で見えていました。

鎌倉のやっていきたいことを取りこぼさずに網羅することを考えると、どれも大事なことだなと思います。

まとめることでも取りこぼしがない方が良いと思います。これは一つ立てておいた方が次の施策につながりやすいというものでしたら、事務方にお聞きしたいと思います。

【経営企画部長】

事務局としましては、ライフステージ、生まれてから成人してその後を含めて長期間にわたって、また、分野も広い範囲で出ささせていただきました。

基本目標を、相対的に全体を見渡していく設定の仕方にするか、また絞り込んで判りやすくしていくかご議論いただきたいところです。

我々としては、前回のご議論が生まれてから成人して大人になっていくまで、一生のライフステージで落としがないように市の施策を幅広くお示しするというのを念頭に置き、提示させていただきました。

【議長（松尾市長）】

確かにライフステージで区切るというのもきれいなまとめ方ではありますが、今回、大綱を作るそもそもの目的が、切れ目、切れ目になっているので間の部分の支援が繋がらなかったとか、教育委員会と市長部局の組織の違いによって手が届かないところを解消しようとするのが目的の一つだと思います。

整理ができる部分はきちっと整理して横につなげていくという考え方でもう少し目標を整理してまとめたほうが良いと思います。

そこは今頂いた視点でまとめるように事務局の方でたたいてということでもよろしいでしょうか。

【安良岡教育長】

まとめる際に、山田委員が言われたように、漏れはないか、ここにあるようにどこからこれは関連しているのか、そういうことをきちんと盛り込んで頂きながらまとめられるものはまとめて、市長が言われるように連携を図っていけるような基本目標にしていく方向でしょうか。

そういう風なことを検討していただければと思います。

【齋藤委員】

私も同じ意見です。

それぞれの分野のところで細かい配慮し充実させていくと考えていくと両方で重なる部分があり、そうすると落ちがなくなり安心できます。

言葉としては重なる部分があれば一つにまとめても良いですが、いろいろな方向から見ていくのは大事なことではないかと思います。

つまり、1と8は合わすことができると思っています。

【議長（松尾市長）】

目標のところは、今頂いただいたご意見を踏まえて整理することによろしいですか。

そのようにしたいと思います。

重点施策の議論で戻っていただいても良いと思います。

それでは重点施策についての考え方を事務局から説明をお願いします。

【事務局（経営企画部次長）】

それでは、続きまして、重点施策についてご説明いたします。

重点施策は、計画期間内に重点的に取り組む施策や市長部局と教育委員会が連携して進める施策について位置付けることが、前回の総合教育会議で確認されております。

重点施策は、特に、大綱の対象期間である5年間で重点的に取り組む施策を抽出して明らかにしていこうという考え方です。

お示ししています重点施策①から⑥と⑧ですがこれについては、現行の個別計画の中から、本教育大綱のもと、重点的に取り組む必要があると考えるものとしてお示ししているものです。

また、⑦につきましては、今後、市長部局と教育委員会の連携体制をより明確にするための施策として新たに位置付けていこうという考え方です。

重点施策の案につきましては、ご協議いただく上での素材としてお示ししていることから、重点施策として位置付ける施策の考え方を含め、施策の内容、過不足等につきましてご協議を頂ければと思っています。

以上で説明を終わります。よろしくお願いいいたします。

【議長（松尾市長）】

ありがとうございます。

重点施策ということで、かなり具体的な文言も入ってくると思います。

1回目の時に私からお話しさせていただきました、子どもたちの学校が終わった後の居場所、土曜日も含めた施策というのは重点施策として取り組んでいきたいということでそこも盛り込んだ形で作らせていただいています。

あと不登校の課題とか幼児教育のあり方等も私としては盛り込んでいきたい重要な施策と思っています。

あと子どものみならず大人の教育のあり方としましては、徳育の充実ということもその必要性ついてこれまでも話をさせていただいております。

学校教育でどうということではなく、地域全体として取り組んでいく仕組みが作れないかという思いであります。より生きやすい社会、お互い助け合えるようなそういうことも、考え方として具体的な施策として盛り込んでいければと考えております。

重点施策として具体的なものを盛り込むべく議論させていただけばと考えています。

【下平教育委員長】

私ども教育委員会は、月例会等で報告とか質疑をしていますので、小中学校のことに関しては結構把握しています。

ここに上がっているものは、既に取り組みが始まっていたり、結構良いところまでいってたりしていますが、期間は5年ですよ。

5年でやらなければいけなくて、例えばここにあげている8項目は5年間でやれるという見通しでここに上げているのでしょうか。

あまり無理をして、結局、手つかずのまま中途半端で終わってしまっただけでは、せっかく議論を重ねても残念だし、どんな見通しですか。

【経営企画部長】

重点施策の期間は4、5年ということで、市の事業は実施計画がありまして、前期後期と3年ごとに区切っています。

今は第3期基本計画の前期実施計画で、平成28年度までになっています。平成29年度から新たな3年計画を作っていくことになります。

ここでご議論していただき合意した内容につきましては、それに位置付けてスケジュールを立てながら実施していくことを考えていくことになります。

ただ、財源の必要なものや人員措置が必要なものは、必ずしもすべてができるかは、詳細に検討していかなければなりません。

今ここに挙げているのは、これまでの議論の中で優先的に考えていくべきということで期間内に取り組んでいくことができるのではないかとということで、財源の裏付けとかは見えておりませんが、そういう考えの中で提案させていただいております。

【下平教育委員長】

せっかく作っても、机上の空論では無意味なので少しでも5年のうちに形にしたい、前進させたいという思いが強いです。

私は、教育委員会の中のことしか知りませんが、今まで市長部局と教育委員会がバラバラに動いていただけに、煩雑になって財源も難しかったという問題が結構あるのではないかと思います。

例えば、放課後の学童の問題も、学童だけで人数が増えたから、それから老朽化したので何とかしようと考えたら、結構難しい問題だと思いますが、地域の連携を作って若者たちの居場所も一緒に考えようとか、教育相談機能もそういうところに手厚くいくようにしようとか、せっかく地域にある学童だから、子育てに悩む家庭への支援ができる場所にしようとか、そういうことを大局的な視野で考えられると良いのではないかと思います。

ここで一から始めると、今回、これやります、これやりますとなってしまうので、私たちの考え方としてはできるだけ皆が協力し合って、それこそ市と一体となることができることはないかという視点を大事にしたいと思います。

【山田委員】

委員長がおっしゃったことは私も感じています。

高齢者の孤立や子育て家庭の孤立など、一人では解決しづらいことでもそれぞれの強みを生かして課題を共有することで、相乗効果が期待できる、というようなことを私たち委員の間でもよく話しています。総合教育会議の醍醐味というか、意味は、そういった連携をきちんととって、効率よくより良い解決策に結び付けるところだと思っているので、重点施策でそれが可能になるように盛り込んでいきたいと思っています。

重点施策を拝見しますと多いように感じますが、一つ一つは大事で、さらに具体的なものと漠然としたものが共存しているように見受けられます。

ですから、いろいろな計画がある事を考えますと、この重点施策というのは、ある程度具体的な方が良いように感じています。

理念や目標を実現するために、何をするのかということが見えるようにしないと、プラン自体が形骸化する恐れがあるので、①のような具体的なものを提案していきたいと思っています。

【齋藤委員】

この重点施策をすべて取り組んでいって完ぺきにこなしていったら、素晴らしい鎌倉市に、子どもたちも良い教育ができるし、鎌倉市の皆さんもとても良い生活ができるのではないのでしょうか。網羅されていると思います。それだけに具体策を考えて、そして前向きに取り組んでいく形を確実にしたいと思っています。そうするとこうやって話し合っただけで実りあるものになっていくのではないかと思います。

【朝比奈委員】

改めて伺いますが、これは重点施策として考えられるものの案は、もうすでに動いているものが多いですね。

初めて立案したものではないわけですが、市長部局と連携ができるということが画期的なことであるという理解で良いですか。

【議長（松尾市長）】

より連携をすることによって、その効果がさらに高まって、今まで取り組めなかったところまで取り組めるようになったとかはありますが、ここに掲げていることがすべてとは思っておりませんので、まさに連携によって効果的な施策というものがあればご提案を頂きたいと思っています。

【朝比奈委員】

今までと変わらないということでは仕方がないので、何かこれをするすることで、今までなかなか進まなかったことが具体的になり、全部できたら素晴らしいと思います。

どうしてもバラバラでというとなかなか進まなかったものが、一つにまとめてつないだり、あるいは違った見方をするとうまくいくということは往々にしてある事でもありますので、こういうチャンスに何を重点にするかよく考えていきたいと思えます。

漏れないように、今までマークがつかなかったこともあると思うのでその辺も良く考えていきたいと思えます。

【安良岡教育長】

3番の郷土教育の充実のところで、新たな文化的発信拠点となる施設の整備というところがありますが、歴史文化交流センターのことですか。

【事務局（教育部次長）】

教育長のご指摘のとおりで、(仮称)歴史文化交流センターをイメージして、そこから新たな生涯学習であったり、教育であったり学習の場になるということを書いております。

【安良岡教育長】

子どもたちも今、鎌倉の歴史を学習しようとしても、なかなかできる場所がないので、ぜひそういうところを早く整備を進めていけたらよいと思っています。

それから4番のところの教育相談機能の充実は、現在もこどもみらい部と教育委員会・学校も勉強しながらこどもみらい部の皆さんとこども相談という形で勉強しています。

今後も様々な課題が、子どもたちから出てくることも考えられるので、今後も連携していきたいと思っています。

教育委員会では、相談センターでスクールソーシャルワーカーを採用しています。

スクールソーシャルワーカーは、教育機関だけでなく、医療など様々な福祉の分野との連携をとっていますので、教育相談の機能の充実には教育委員会だけではなく、こどもみらい部や健康福祉部とも連携が取りやすいような体制作りが充実していくと良いと思っています。そういう中、市長部局と連携が見えて来るようなものがあれば良いと思えます。

【山田委員】

市の保有する文化財や市有地など、鎌倉市にとって良い活動につながる資産の有効活用が停滞していたり、取得してから時間がたっているものもあると思うので、早く活用できる仕組みができると良いと思えます。

また、物事を大局的にとらえられる教育を推進していきたいと思っています。

視野が狭いと、ちょっとしたことにとらわれてしまったり、落ち込んだり、相手にイライラしたり、時に追い詰められたり、いろいろな負のことにつながります。世界の動向に目を向けたり、視野を広げ、心にゆとりを持つことは生きていく上で不可欠なことと思えます。そういう学びが教育現場や生涯学習などで可能になるといいと思えます。

【下平教育委員長】

人間関係でトラブルを起こすとか、精神的に病んでしまうとかの要因は、視野が狭い・枠が固定化しているという柔軟性に欠けるところにもあります。自分が広げれば、色々なものの見方や考え方ができ、あちこちにぶつかることもなくなるから、大切ですね。

これから核家族化もすすみ、孤立化して、親の価値観だけを受け継いで生きて行くようになると、どうしてもそうなりやすいし、学校の先生方も先生だけの世界にいるとどうしてもそうなりやすいから、疲れやすくなったりするかもしれないし、今後の課題ですね。

市の施設が活用されてない部分が沢山あるという話が、今日も教育委員会で出ました。そういうものをもう一度うまく活用できないかと考えるのも一つです。

昔、寺子屋と言って、お寺は若者たちの視野を広げる、剣道などをやって鍛える場所であったし、あとは駆け込み寺もありました。DVや困ったことから逃れる場所でもあったわけです。

鎌倉には、そういう意味の場所があって、そういう所に、もし皆で力を合わせることができるなら、そういう施設が市民たちの老いも若きもつなげることができる場所として作れるのであれば、素晴らしいことだと思います。

市長部局と教育関係の人たちが、皆一体化して知恵を寄せ合って力を合わせれば、可能なことかもしれません。実現したいと思います。

【議長（松尾市長）】

1 回目の時も朝比奈委員からお寺を使う考え方もあるのではないかと、貸しますよとは言えないという前提でしたが。

市の施設の有効活用も含めて、その場の活用というか、そこが一つの重要なポイントになるかと思っています。

施策を展開するにあたって、場所ありきではないかもしれませんが、その場所を活用することによって、何かできることが広がっていくこともありますので、この辺の情報提供は、事務局から既に市として活用できる部分をよく委員にも周知して、考えるときの一つの大きなポイントとして捉えられるように取り組みたいと思います。

【朝比奈委員】

場の力というのがありまして、この部屋が講堂という名がついていますが、講堂という風格には及ばないと思いますが、たとえ古めかしくてもお寺の書院であったりお座敷であったりするとそれはそれでいるだけで雰囲気違って、伝わってくるものが違うということが、私が普段いると気が付かないのですが、たまにいらっしゃる方はそういう風におっしゃっていただきます。

この夏に、御成小学校の学童の場所を使っている子どもたちを対象にして、浄光明寺さんで、座禅会をしました。浄光明寺さんは真言宗のお寺なので、座禅はしませんが、私と若い和尚さん二人で出張座禅会みたいなことをやって、そこでずいぶん大勢の小さい子が来ました。座禅が終わった後で浄光明寺の裏山を上がって、山の中を散策したりして、帰ってきたら感想を言い合ったりして、その感想も小学校2年生ぐらいの子でも割と的をえた質問があったりとか、良い体験になったという感想を後で頂戴いたしました。

我々は、ややこしいこと考えなくても、その場を提供するだけでも、どうやら良いらしいことを痛感しています。

私が住職している浄智寺で、若いNPOの人たちが、食事を楽しむイベントをいたしまして、本堂を使ったり、ワークショップがあったり、市内の飲食店が店を出したり、私もカレーを作って出したりもしましたが、そういう場所を楽しむことで、主たるは大人の集まりだったかも知れませんが、子どもさんも多く参加して、ほっとするような空間を提供できました。

京都はお寺が多いのですが、まち中にあるものがほとんどです。鎌倉は自然がすぐ近くにあるということで、京都とは違ったまちの規模感がちょうどよい。

是非、そういう環境を利用できるシステムができると良いと思います。

行政が保有している前田邸とか、古いお屋敷にとっても良いお庭やお部屋があるわけだから、そういうものを活用できたら良いと思います。

【下平教育委員長】

今、場というものが大事ということですが、本当にその通りで、例えばバブル期、社会全体に良い気が満ちているときは、私たちも活性化して生きていけたわけです。

自然環境が整っているときは、人間、健康に自然から力をもらって生きてこられたわけで、殺伐とした乱暴な気のところにいけば、私たちの心の気も下がっていくわけですから、そういう意味で鎌倉は、都会の中にはない素晴らしい場所がいっぱいあるのかもしれない。そういう良いエネルギー、良い気を活用して気力を充填できることは鎌倉ならではの活用法になるのかもしれない。

【議長（松尾市長）】

頂いているご意見を考えますと、今までの施策の延長線上でというよりも、もう少し様々な課題になっているものをミックスして、それが解決できる方策が議論する中で出てくる、それも相手がある事、関係者がある事ですから、実現できるかということがあるのですが、そういうことをもう少し追求していくことが求められる事だと感じました。

【安良岡教育長】

補足説明させて下さい。5番のところに小中一貫教育の充実と書いてありますが、今、全国的に小中一貫校を作ろうというような動きがある中で作られているのですが、鎌倉で進めている小中一貫教育は、校舎を合築した一貫校を作ろうとするものではなく、それぞれ中学校区を中心として9年間を見通したそれぞれの子供像を見つけて教育課程は国の教育課程がありますので、それを基本にしております。

その中で、地域で何か特色のあるような取り組みができればそれぞれ小学校中学校の連携を推進しながらそんな取り組みをして、地域で地域の皆さんと一緒に、子どもを9年間を見通した教育をしていきたいと思いますというので小中一貫教育、連携型の充実ということで始めているところです。

今後も教育委員会としては、小学校で何をやっているのか、その子供たちが、中学校へ行ってどんな子どもたちになっているのか、というのは小学校の先生方に見ていただいて、小学校、中学校と一緒に9年間の教育に力を入れていきたいと思いますというので取り組みを進めているところです。

ので、他県でやっているような小中一貫校を作っていく取り組みではないことを確認しておきたいと思います。

【齋藤委員】

先日ですが、子どもたちが生き生きと笑顔で歩いてきました。御成中学校の学校訪問の帰りでした。小さかった子が中学生になるのだと嬉しそうだった。それを見て、良い交流をしていると嬉しく思いました。

それから、中学校の先生が小学校に行ってお話をしたり興味付けをしたり、素晴らしい交流ができています。

【下平教育委員長】

全部につながる事だと思いますが、市民をみんな巻き込んでいくには、私も教育委員になったからかなり見えるようになりたけれど、忙しい社会生活を送っていると、市がどんなことをしているか見えないのが市民の実態かなと思います。

今日も、教育委員会で話が出ましたが、世界遺産登録推進委員会が主催になって、市民向けに鎌倉の文化財の価値と魅力を知る企画を建長寺さんで開催し、これから参加者を募集するということをお聞きしました。

色々なことを大きくやっていると大人も子どもも郷土教育の3番につながっていくのではないかと思いますし、新しくできる施設なども市民の人たちに協力してもらい、そして利用してもらうことにつながると思います。

教育相談機能に関しては、あれだけ良い相談室があっても、困っている人たちが気楽に相談に来れるのかというと、一番問題なのはそこに来れない人、知らない人そういう人たちです。

既に行っていると思いますが、色々な機会を使って市民一人ひとりにこういう活動を知らしめるというか、協力を仰ぐというか、そういう体制づくりが重要になってくると感じています。

【議長（松尾市長）】

市の行っている施策とかは、なかなか市民に伝わりにくい、市としても頑張っていて広報している部分があるのですが、限られたツールの中では結果的に伝わっていないという状態が起きていることは十分認識してしまっていて、そのあたり、工夫が必要だと思っています。ぜひそのあたりはお知恵と協力を頂きながら、どうできるかを考えていきたいと思っています。

象徴的な何か施策をやることによって、それが市の方向性を象徴していったりすると、市民の人たちに知っていただくことになると思います。

そういう意味では、重点施策でどういうことをやるか、それをPRしていくかは、大綱づくりに向けても大きな意味を持つ大事なことだと思います。

【山田委員】

質問ですが、重点施策の中にさらにもう少し具体的なものが入ってくるのか、この先、個別プランにゆだねるのか、どのような見通しでしょうか。

どの程度まで具体的なものに入っていくのかにも関わってくるのですが、この1枚で完結なのか。

【経営企画部長】

重点施策として考えているものは、先ほどもご議論があったのですが、かなりピンポイントでこの事業と特定できるものと、かなり抽象的な、ボワツとしているもの特にそれらはあまり取り組みがなされていないところに具体的にどんなことをやってよいのか我々もわからないところがあって、かなりレベル差があるような表現になっています。

たとえば8番ですとか6番あたりは、非常に抽象的な表現になっていてどんな施策が有効なのかご議論いただきたいと思っています。

この総合教育会議でのご議論になってくると思いますが、今ここに出している項目プラスもう少し具体的な項目があったほうが、何があってどう変わるのかをお示ししやすいのかという感じがしています。

1番から8番までありますが、これも先ほどの目標と同じように、8項目の細かいものにしていくものなのか、もう少し括ってこの分野、この分野の中にこういう事業が入っているという示し方をするのが良いのか、その辺もご議論の中で確定していきたいと考えています。

【下平教育委員長】

5年間という期間があるのですが、今の社会の動きを見ますと5年というのは何が起きるか判らない5年だと思います。

そう考えると、かっちりしたものを作るより、大きな問題が起きた時にこれ先にやろうと柔軟に取り組みができるように、個別に明確にかっちり作らないほうが良いのかもしれない。

とりあえずすぐ行動に起こすためには、私たちの中でとにかく真っ先に取り掛かろう、そして同時進行でこれもやろうみたいなものが、具体的に2つ3つ明確になっていると良いのかなという気がします。

それと8が曖昧だという話がありましたが、ほんとに大人はどこからいうのかわかりませんが、私たち世代ぐらいより上と今の時代は環境も違うし、例えば私ぐらいの世代だったら、地域の中で大人たちとのコミュニケーションがありましたから、言葉数とかこういう言葉を投げるとこ帰ってくるとか、そういうことは経験上学べてた世代であるけれど、今本当に核家族だったり、孤立化している家庭では、言葉自体も学べてないという実態があるし、言葉のキャッチボール自体も経験値の中で学べてない実態があります。

そうなってくると、コミュニケーション能力は生まれて人間として言葉を話せばできるかというのできない、一から教えないといけない時代になっているかもしれません。

そういうことを大人たちはちゃんと知って、だから言葉を教えなければいけないとか、会話方法を身に着けさせなければいけないとかの知識を、改めて今の時代にマッチしたことを学び直さなければいけないと思います。

子育てに関しても、私の頃は、電車に乗れば赤ちゃんにおっぱいをふくませている女性を見たという時代ですけど、今そういうシーンは全く見ませんし、兄弟も少ないから子育てというものを目の当たりにしていないから、本当にお母さんたちが子育て不安があるのは当たり前前で、そういうところも私たちの世代からは見えないけれど、一から子育てを教えて伝えていかなければ不安になるのは当然です。

今も教養センターで大人向けに教養講座をしているのはわかるのですが、そうでなく、もう一度みんなの時代に大人たちもこういう知識を持たなければいけないことを考え直したうえで大人向けのセミナーも考え直さなければいけないかもしれません。具体的になってしまいましたが。

【山田委員】

関連しますが、学校教育では教えきれていない「生きる力」に向けた学びも現行の教育制度に含まれていませんが、重要なことだと思います。そもそも大人のなり方というか、免許をとったり、お酒が飲めるようになったり、選挙権が得られたりと、表面的には大人にはなっていくわけですが、内面的に、あるいは精神的に、大人になる道筋を、昔は地域の長老が若者を指南したと伺っています。

今、それが欠けているために、結婚生活の営み方がわからず破たんしたり、家族の意味が分からなかったり、お金との向き合い方に困ったり、親になる責任を認識しきれていなかったり、男女はそもそもどうやって折り合っていけばいいのか分からないなど、生きる上で避けて通れないことへの教えが欠如し、うまく社会生活を営めない若者も多いのではないのでしょうか。そういったことが道徳になるのかもしれませんが、保健体育でも一部教えられているのかもしれませんが、もう少し学校でできるのか、あるいは別の場所なのか、いずれにしてもより強化する必要があると思うので、そこを具体的に考えていきたいと思っています。

【議長（松尾市長）】

ご意見はよろしいでしょうか。

生きる力を考えますと、様々な課題があつて、力を身に付けることが学校教育だけでは難しいのは明らかで、ただ、市民の皆さんから声を聴くと、もっと学校教育でこんなこともやってほしいとかもあるのは事実です。

でもそこは限界があつて、地域の中で家庭の中でどういう風にやっていくかということ逆をメッセージとして発信していくということが大事だと思います。

教育大綱の役割の一つだと思いますが、一人の人間として成長していくための必要なことを包括して落とし込んでいければと思っています。

今、頂いたご意見を踏まえまして、今一度考えるところと、また、具体的な施策等につきましては、今日、たたき台として出させていただきましたので、各委員さんからのご提案を頂きながら重点施策を作っていくということでよろしいでしょうか。

それでは全体を通して言い忘れたことなどがありましたらお願いします。

【山田委員】

キャッチコピーを作るとのことですと、今後どのように進めていけばよろしいのでしょうか。できればこれからの未来を生きていく子どもたちの視点を組み込めれば良いと思います。

新たに公募することは難しいと思いますので、何か学校などで子供たちの意見や考えを集約しているようなことがあれば、参考にさせて頂きたいと思います。

例えば、鎌倉子ども議会の今年の宣言には「心豊かに成長できる豊かな教育を受けたい」というような素晴らしい望みが書かれていますし、私たちはある意味半分の人生を生きてしまっています

が、この大綱によって生きていく子どもたちに響く、有用な大綱にしたいと思いますので、そういう機会がありましたら教えていただければと思います。

【教育部長】

子ども議会で集めたフレーズを参考に案を作ったものをお示しして、それに対して委員の皆さんからもこんなキャッチコピーが良いのではないかというものがあればお知らせを頂きたいと思います。

年度内に総合教育会議を2回程度予定していますが、時間もありませんのでご意見をやり取りしながら進めたいと思います。

【議長（松尾市長）】

下平教育委員長からも、キャッチフレーズを出していただきましたし、いくつかキャッチフレーズを出し合いながら次回に向けて作っていきたいと思います。

では、事務局から本日のまとめをお願いします。

【事務局（経営企画部次長）】

本日は貴重なご意見ありがとうございました。

ご意見を受けて素案に反映し提案させて頂きたいと思います。

事務的なことも含めて具体的などころの案件が出ていますので振り返りをさせていただきます。

まず、キャッチコピーについては基本的に作っていく。基本理念を踏まえて良い表現を選んで頂くこととなります。

基本理念のところでは、大人も子どもの部分の表現が話として出ていましたが、それを包含できるような、育ちあうというようなご意見がありました。そういうところで整理をさせて頂きたいと思います。

基本目標ですが、件数が多いということも含めて例えば1と8を一緒にするとか、1の中で経済的支援だけでなく精神的支援があるのではないかというご意見、教職員の健康管理については複数の方からご意見を頂きました。このあたりも取りまとめの時に入れるかどうかです。

基本目標3のところでは確かな学力を踏まえ、豊かな学びというような言葉を入れていきたいというご意見も頂いております。

7番の辺りですが、教職員のケアも含めて、教育環境を作っていくという表現ができないかというご意見も頂いております。

生涯学習の部分では、もう少し文化の視点も入れていきたいというご意見でした。

基本目標の中にあまり入っていない視点で、鎌倉の地域性を鑑みた農業ですとか漁業などを活用した地域らしい教育ができないか、社寺も含めて文化財に親しむような視点も必要だろう、食事の関係で食事ができているかとか食育についての視点を盛り込んでいきたいというご意見もあつたと思います。

そういった部分を含めて、ここはちょっと意見が分かれていたと思いますが、基本目標の件数ですが5件ぐらいが良いのかこのままで良いのか、もう一度作業させていただいて、少なくとも漏らさないような形のご提案をさせて頂きたいと考えています。

重点施策ですが、冒頭、市長からもありましたように、放課後の過ごし方ですとか不登校、高等教育、徳育も含め、今後議論していきたいということを踏まえる中で、まず、視点としては5年間で達成できるようなものを施策としてあげていきたいと思います。これは委員さんの共通のお考えだと思います。

特に市長部局と教育委員会がより連携をして協力し合うような視点ということで、それぞれのお互いの強みを出せば良い施策が展開できるのではないかと、共通の意見かなと思っています。

施策の中には具体的な施策と漠然としたもので施策としてなりきれていないものがありましたので、そのあたりは、もう少し機能を詰めていって、よりわかりやすい施策の展開にしていく必要があるのかなということで、できる限り5年間ということ踏まえて具体的なものを作っていくということかと思っています。

郷土教育の部分ですが、特に（仮称）歴史文化交流センターを設置しますので、そのあたりを踏まえて施策の展開を期待するというご意見ですとか、あるいは特に教育相談の部分では、市長部局と教育委員会がよりよく連携ができる中から、スクールソーシャルワーカーも含めて施策として十分に進めていくというご意見があったと思います。

文化財も含めて市有地の有効活用という話も出ていたと思いますので、特に場の部分ですが、教育が展開できる場をどのように作っていくかとか、どのような場があるかということは、逐一委員さんへ提供するとかが確認されたと思っています。

特に施策については、よりわかりやすく市民にPRしていき、象徴的なものにしていき、大綱が身近に感じられる具体的に示せるようなことを考えていく視点が必要だということと、大人関係については、講座とかというより大人向けのセミナーですとか、あるいは、より充実した様な取組が求められているということ。

さらに学校教育では教えきれない、これは大人にも関係することですが、生きる力ですとか、いわゆる大人のなり方とか、その辺の視点も施策として展開していくこと、そういった視点を確認して次の素案に反映していきたいと考えていますので、次の回までに内容を調整させていただきたいと思っています。よろしくお願いたします。

【議長（松尾市長）】

事務局からの説明でよろしいですか。

ありがとうございます。では、確認させていただきます。

その他として事務局から。

【事務局（経営企画部次長）】

第3回の総合教育会議ですが、11月18日水曜日、午後1時30分から講堂で開催したいと思っています。

よろしくお願いたします。

【議長（松尾市長）】

委員の皆様、大変お忙しい中ですが、第3回もよろしくお願いたします。

本日は長時間にわたりましてご協議いただき、ありがとうございました。
これもちまして、第2回鎌倉市総合教育会議を閉会といたします。